

田中素香『ユーロ 危機の中の統一通貨』岩波新書、2010 年

1. 目次

はしがき

I 章：ユーロの歩み —1999～2010 年—

II 章：ユーロ導入までの道のり —1970 年～1998 年—

III 章：ユーロはどういう仕組みなのか

IV 章：世界金融危機とユーロ

V 章：ギリシャ危機とユーロ存亡の危機 —2010 年以降—

終章：ユーロ再考 —課題と展望—

あとがき

2. 著者紹介

田中 素香（たなか そこう）

1945 年 福岡県生まれ

1971 年 九州大学大学院経済学研究科修士課程修了

現職（2010 年現在）：中央大学経済学部教授、経済学博士

専攻：ヨーロッパ経済論、統合経済論

著書：

『世界経済・金融危機とヨーロッパ』（編著、勁草書房、2010 年）

『検証・金融危機と世界経済—危機後の課題と展望』（共編著、勁草書房、2010 年）

『拡大するユーロ経済圏—その強さとひずみを検証する』（日本経済新聞出版社、2007 年）

『ユーロ その衝撃とゆくえ』（岩波新書、2002 年）

ほか多数。

3. 選定理由

- (1) ユーロの仕組みを明確にする。
- (2) ユーロと金融危機との関わりを見直す。
- (3) ECB（ヨーロッパ中央銀行）の役割を知る。
- (4) ユーロが崩壊しない理由を議論する。
- (5) リーマンショックと EU・ユーロとの関わり見直す。
- (6) ギリシャ危機の始まりを見直す。
- (7) ユーロ離脱とは何か？また、その可能性を考察する。
- (8) 「リージョナル・インバランス」とは何か知る。
- (9) ユーロ危機に何をすべきかを議論する。
- (10) ギリシャ危機以降の加盟国・ECB・IMF の動向を明確にする。